

沿革

当センターの前身である財団法人静岡健康管理センターは静岡新聞社・静岡放送が母体となり、1971年8月1日に設立された静岡県民のための人間ドック（総合健診）専門施設です。その誕生には、静岡新聞社・静岡放送の社主であった大石光之助が戦後米国ホノルルで新聞経営の研究に当たっていた当時、米国で胎動し始めた「治療中心の医療から予防重視への新しい医療体系」に着目、この潮流がわが国の医療界への到来必至と予測したことに始まります。二代目大石益光静岡放送社長は地域のマスメディアとして、健康づくりによる静岡県民への社会還元事業を考えておりました。また、自らも臨床医であったことから、この「疾病予防を重視した医療センター設立」の提案を前向きに受け止め、新事業として引き継ぎました。「良質の医学検査データによる終生の健康管理」をモットーに、多くの医療関係者のアドバイスを受け、東京、名古屋に次ぎ全国4番目の総合健診専門施設として、財団法人静岡健康管理センターが誕生しました。

その後約50年間、地域の皆様の総合健診センターとして、「県民の健康と福祉に寄与する」ことを目的に取り組んで参りました。開設当初2千人余りだった人間ドックの年間受診者数は、1992年には1万人を超え、人間ドックや健診、がん検診等で当センターを受診される方は現在では3万人を超えるまでになりました。

生活習慣病の予防健診及びがん検診を実施し、地域全体の健康増進に貢献する事業の公益性が認められ、2011年11月1日に『公益財団法人SBS静岡健康増進センター』と施設名を変更しました。さらなる地域支援の施設として、健康講座・講演会など定期的に開催し、県民への啓蒙活動を行っています。

2013年10月に新館が完成し、2014年1月から健診業務の効率化を図るため新システムを導入しました。

これからの人間ドック及び健康診断は超高齢社会（人生100年時代）に視点を置いた先進的なスタイルに変化していく必要があると考え、疾患発症の予測・予防を目的とし生活習慣の改善のみならず運動や食事・栄養に関する指導もこれまで以上に積極的に推進して取り組んでいきます。

センターの現況

- 設立年月日 : 1971年(昭和46年)8月1日
- 施設長 : 理事長 大石 剛 所長 古賀 震
- 所在地 : 〒422-8033 静岡市駿河区登呂3-1-1
- 交通 : タクシー JR静岡駅南口より約10分
バス 同駅南口よりしずてつジャストラインみなみ線内回り「駿河区役所・静岡新聞社前」下車
車 東名高速道路「静岡インターチェンジ」より約10分
「日本平久能山スマートインターチェンジ」より約7分
(駐車場完備)
- 電話 : 054-282-1109 予約専用 0800-200-4466
- F A X : 054-285-1460
- ホームページ : <http://sbs-smc.or.jp>
- Eメールアドレス : dokku@sbs-smc.or.jp
- 健診実施日 : 月曜日～土曜日(12月29日～1月3日及び祝日を除く)
- 料金(税込み) : 日帰り人間ドック 基準コース 41,800円
生活習慣病健診 25,740円
女性健診 21,450円
脳ドックコース 38,500円
- 申込方法 : 電話等で予約を受け付けています。約1ヶ月前に、必要書類一式を郵送します。
- 結果・指導 : ドックコースでは、当日医師による結果説明及び生活指導があります。精密検査が必要と判断された場合や治療を急ぐ必要がある場合には、当日結果を説明し、紹介状をお渡しします。また、必要に応じて保健師・管理栄養士による指導も実施します。結果報告書は18日前後で本人宛に郵送します。
- 推奨受診間隔 : 年1回
- 特色 : 新鋭の検査機器と熟達した医療スタッフをそろえています。
専用のコンピュータシステムによる総合データ管理を行っています。
プライバシーに配慮した検査設備で効率よく検査を進めていきます。
検査の待ち時間に参加できる運動教室を開催しています。

1) 総合健診(人間ドック)

当センターは、わが国の自動化健診のパイオニアの一つとして今日まで延べ49万人の総合健診を実施しました。静岡新聞社・静岡放送を母体とした当センターは、地域に寄与する開かれた健診をモットーにレベルの高い検査技術と安心の診断精度を備えています。

2) 医師の診察と結果説明、フォローアップ体制の充実

臨床経験豊かな医師による内科診察と結果説明を人間ドック受診者全員に受診当日に実施して、受診者とのコミュニケーションを重視した指導をしています。

総合病院や医院との密接な病診連携により、精密検査や治療が必要な場合は迅速に専門医を紹介し、疾病の早期発見、早期治療に努めています。

3) 女性検診の充実

2003年より乳がん検診にマンモグラフィを導入。日本乳がん検診精度管理中央機構認定の読影医、撮影技師をそろえ、2004年には静岡市で最初の施設認定を受けました。また、撮影は女性技師が担当しています。2011年よりデジタルマンモグラフィ、2020年よりトモシンセシスを導入し、診断の精度のさらなる向上を行っています。

子宮がん検診の細胞診判定は、当センター専任の細胞検査士と細胞診専門医が担当し、正確な診断に努めています。

4) 継続的な保健指導

特定保健指導の委託契約を交わしている団体は46団体となり、初回面談を健診当日または利用券等で後日に実施しています。

指導では支援対象者との信頼関係を大切に、継続できる生活習慣の改善を提案して、対象者の健康レベルの向上に粘り強く取り組んでいます。

5) 高度な検査水準

1975年10月に日本総合健診医学会の定める認定基準をクリアし、「優良総合健診施設」(健保連との健診契約指定施設)に指定されました。また、2006年6月には日本人間ドック学会の「健診施設機能評価認定」を取得(2015年に更新)し、外部からの認定評価を受けています。

6) 時系列データの活用

当健診施設では、継続受診者(リピーター)が83.1%を占めています。このため豊富に蓄積された個人健診データを時系列情報として、経年による体調変化や疾病の早期発見に活用し、精度を高めています。

7) アンケートの実施と活用

受診者からの要望、意見、感想、質問等には迅速に対応し、快適な受診環境の維持と改善に努めています。記名者には個人ごとに回答し、受診者の満足と安心をつなぐ架け橋としています。

8) 個人情報の管理

個人情報保護法を遵守し、プライバシーポリシーを策定し公表しています。個人情報の適切な取り扱いと安全管理に取り組んでいます。

9) 公益事業

毎年、県民を対象とした健康講座を企画し、外部専門医を講師として健康長寿と健診受診率の向上のため啓蒙活動を積極的に行っています。そのほか、がん検診や生活習慣病についての知識や情報を新聞、放送などのメディアを通じて随時発信しています。

また、各種団体からの講演依頼には積極的に講師を派遣しています。

10) 共同研究

現在、予防医学は「疾病疾患の早期発見、早期治療」に加え「生活習慣の改善と健康支援」も重視するようになりました。静岡県立大学などと共同研究を行い、得られた成果を学術的に分析、公表しています。

11) 『楽・ラク運動教室』の継続的開催

当センターではインストラクターの指導の下『楽・ラク運動教室』を毎日実施しており、受診者は誰でも参加可能です。腰痛、肩こり予防と正しい姿勢、効果的なウォーキングのための運動教室です。

12) 事業所訪問

事業所ごとの統計資料を持参して、各事業所や健康保険組合の担当者を訪問しています。当センターでの受診状況やがん検診項目における要精検率および精密検査結果等について報告し、要精検者に対してはフォローアップレターにて受診勧奨をしていることも伝えています。

13) ホームページ

当センターではホームページを開設して、いつでもどこからでもすべての人に事業内容を公開するとともに、最新の「統計情報」や「健康コラム」などを掲載して生活習慣病の予防や日常の健康づくりを支援しています。また、Eメールでの各種の問い合わせにも応じています。



こちらのQRコードからご覧ください。